

生態學辭典

生態学辞典

沼田真一編

築地書館

生態学辞典

1974年12月 1 日初版発行

編者——沼田真(ぬまた まこと)

発行者——土井庄一郎

発行所——株式会社 築地書館

東京都中央区築地 2-8-2

電話 東京(03)541-2051

振替 東京19057

印刷——壮光舎印刷株式会社

装幀——杉浦康平+海保透

編者略歴——1917 茨城県に生まれる

1942 東京文理科大学理学部植物学科卒業

現在 千葉大学理学部教授

住所 千葉市弁天町74-2

©MAKOTO NUMATA 1974
3545-174113-4818 Printed in Japan

ア

アイ エッチ ディー [IHD; International Hydrologic Decade] = 国際水文学十年計画

アイサツ コードー 挨拶行動 [greeting behaviour] 一つの社会集団の中で個体間の緊張を解く社会行動の一つ。2個体が一定期間以上別行動をとることにより緊張が生じ、またその緊張を解消する行動が穏やかな形で行われたとき、これを挨拶行動と呼ぶ。本来、宥和行動から生じたものと考えられるが、チンパンジーやヒトでは、すでにそれとは独立した動機づけの機構をもっていると考えられる。

アイ シー エス ユー [ICSU; International Council of Scientific Unions] 国際学術連合会議。イクスと呼ばれる。

アイ ジー ワイ [IGY; International Geophysical Year] = 国際地球観測年

アイデルタシスー —— 指数 [I_d -index] 分布集中度の指数として森下(1959)が導いたもので：

$$I_d = \frac{q \sum_{i=1}^q x_i(x_i - 1)}{T(T-1)}$$

で与えられる。ただし、 q ：区画数、 x_i ： i 番目の区画内の個体数($i=1, \dots, q$)、 T ：総個体数。これは Simpson (1949) の多様度の指数に区画数 q を掛けたもので、 I_d の値は Poisson 分布では 1、集中分布では 1 より大、一様分布では 1 より小となる。標本についての統計量として提案されたが最近、有限および無限母集団における I_d のパラメーター (I_d, I_d^*) も導かれ、各種サンプリング法や群集構造の解析への応用など多方面に発展しつつある。

アイ ビー ビー [IBP; International Biological Programme] = 国際生物学事業計画

アイマー Eimer, Theodor, 1843~1898 ドイツの動物学者。チュービンゲン大学教授。自然淘汰説に反対して、定向進化説を提唱し

た。

アウストラロピテクス [*Australopithecus*] 洪積世初期から中期にかけて、旧大陸の各地に生息していた猿人。現在 *Australopithecus africanus*, *A. robustus* の 2 種に分類されている。頭蓋容量はゴリラと直立原人との中間に位し、犬歯は突出していない。不完全ではあるが、習慣的な 2 足歩行をしていたと考えられる。サバンナに生息し、礫石器(オルドワンカルチュア)を使い、食性は雑食性であったとみられる。

ア エイ キョー シュ 亜影響種 [sub-influent, s. species] ⇨ 影響種

ア エン ガン タイ 亜沿岸帯 [sublittoral zone, s. region, eprofundal r. ① Sublittoral zone, sublittoraler Gürtel ② zone sublittorale] 底生区の生態的区分帯の一つ。① 真沿岸帯に引続くものとしていうときには、深さ 30~40 m から陸棚外縁までの部分。② 潮間帯を意味する littoral zone に引続くものとしていうときには、低潮線から陸棚外縁までの部分。水の流動・水温・溶存酸素量などの物理的・化学的変化が少なくなるので、有機物の破砕された泥や貝殻が堆積する。とくに貝類の死骸や破片の堆積した部分を貝殻帯 shell z. という。

ア エン ショ ク セイ 亜鉛植生 [zinc vegetation ① Galmeivegetation] 亜鉛土壤に特異的に成立する植物群落。アエンスミレが有名。

ア カイ ガン セイ 亜海洋性 [submarine] 河口洲周辺や潟湖などの淡水域や海岸付近だけでなく、かなり内陸にも分布しているような植物についていう。

ア カイ ネ トン [akineton] 無力浮遊生物。浮遊生物のうちで浮遊卵のように運動力を欠くもの。

ア カ シ オ 赤潮 [red tide, akashio, r. water] 苦潮・苦水・青潮といわれるもの

も含む。ある種の浮遊生物が限られた表面水域内で急激に増殖して、水の色が変るほどになる現象。そのような浮遊生物には、渦鞭毛藻類・珪藻類・藍藻類・纖毛虫類などが知られている。

アカミ 赤味 [duramen] =心材

アカユキ 赤雪 [red snow, blood s.] 雪や氷の表面に増殖する藻類による着色現象で、高山や極地の雪渓や氷河で早春に見られる。*Chlamydomonas nivalis* が最も有名であり、赤色素の haematochrome が chlorophyll を覆うため赤色となる。雪の華 snow-bloom の一例で、他に 黄雪・緑雪・褐雪なども知られている。

アカンタイ 亜寒帯 [subarctic zone, subpolar z.] 亜北極の地帯。温帯と寒帯の間にある気候帯。月平均気温 10~20℃の月が1~4か月あり、他の月はより低温である地帯。低温であるが、短い夏があるので生育期間の短い植物が育ちタイガなどの森林を形成する。湿潤気候では常緑針葉樹林帯が、半乾燥気候では落葉針葉樹林帯が対応する。林学では亜寒帯は寒帯に含めることもあり、その場合はタイガは寒帯林に含まれることになる。⇒亜極地方

アカンタイリン 亜寒帯林 [subarctic forest (zone), boreal f.] 亜寒帯に成立する森林の総称であるが、森林帯として用いるときには、ふつう常緑針葉樹林帯と同義に用いる。寒帯林ということもあるが、植生帯区分の上からは正しくない。

アカンポー [infant] アカンボウ。哺乳類の发育段階の一つ。一般に母親から授乳され保護される段階。高等な霊長類では母親に運ばれる。

アキノ 秋 [serotinal, autumnal] とくに秋の季節景観に用いる。

アキョクソー 亜極相 [subclimax, serclimax ①Subklimax ②sousclimax] 野火・採草・放牧・伐採・野生動物による食害など気候因子以外のファクターが加わって極相に達する以前の段階で遷移が阻止され、見

かけ上安定な群落(群集)を作っているもの。採草地のかやば、放牧地の草原、薪炭林などの人為によるもの、強い強風下にある海岸低木林のように自然条件によるものなどがある。

アキョクチホー 亜極地方 [subpolar region] Köppenらの気候型の一つである亜極地気候の地帯。ほぼシベリア・アラスカ・カナダの北方針葉樹林帯(タイガ)に一致する。⇒亜寒帯

アクシュー ブッシツ 悪臭物質 [malodorous substance] 不快な臭いの原因となり、生活環境を損なうおそれのある物質の総称。公害のうちでも悪臭物質は最も複雑で、代表的な成分として窒素・硫黄を含む化合物や高級脂肪酸などがある。魚腸骨処理・畜産関係・塵埃処理・食料品加工・パルプ製造・石油精製・石油化学などの工場・処理場の周辺は著しい。脱臭法として、燃焼・吸着・酸化・水洗等の方法が用いられる。

アクメ [acme] ある生物の系統発生で初期から絶滅するまでの間の最も繁栄する時期あるいはその現象。この時期には形態は比較的安定で個体数も多く、地理的分布も広い。⇒ヘメラ

アクリターチ [Acritarch] 淡水または海水性堆積物に含まれる所属不明の一群の微化石。

アグレステ [agreste] ブラジルの森林帯とカーチングの移行帯, zona do agresté ともいう。雨量は一般に 600~900 mm。ワタ・タバコ・タビオカ・サイザルなどを産する。森林帯のココヤンに対してカトレ catolé (cocos picrophylls) というヤンが指標になる。

アゲンケイ 亜群系 [subformation] 相親による群落区分・群系の下位単位。⇒群系

アゲンシュー 亜群集 [subassociation ①Subassoziation] 植物社会学的な群落単位。群集の下位単位。識別種(区分種)によって決められる。⇒群集

アコーザン 亜高山 [subalpine] ⇒亜高山帯

アコーザンタイ 亜高山帯 [subalpine zone] 温帯の山岳を基準にして作られた植物の垂直分布帯で、山地帯と高山帯の間にあり、西寒帯気候帯に相当する。暖かさの指数で15~45(55) m. d. (月・°C)。常緑針葉樹林帯で、日本の本州ではウラジロモミ・シラベ・トウヒ・アオモリトドマツなどが優占する森林帯である。

アコーセツタイ 亜恒雪帯 [subnival zone, s. belt] 高山帯と恒雪帯との間をこのように呼ぶ場合がある。=亜氷雪帯

アサンチタイ 亜山地帯 [submontane zone] ヨーロッパアルプスなど、温帯の山岳を基準にして作られた植物の垂直分布帯のうち最も低い位置にあるもので、狭義の暖温帯気候帯上部に相当する地帯。暖かさの指数で85~140 m. d. (月・°C)。日本では照葉樹林帯の上部、アカガシ・シラカシ・アラカシ等のカシ類の優占する森林帯にあたる。丘陵帯。

アジア エチオピアク —区 [Oriental and Ethiopian realm] 旧北区の南とつながるアフリカとアジアの動物地理区。

アシェブ [acheb, asheb] サハラ砂漠で雨のあとに一時的にできる一年生草本植生。

アシャカイセイ 亜社会性 [subsocial] 家族制や年齢集団などは見られても、それ以上の社会的な構造・組織・関係は分化していない状態。⇒前社会性

アショーサンサンカサイキン 亜硝酸酸化細菌 [nitrite-oxidizing bacteria] ⇒硝化作用

アシワツケ 足環つけ [banding, ring-ing] 鳥類や哺乳類の個体にアルミニウム製やモネル合金・プラスチック製などの足環を付けて個体識別する方法。標識再捕によって行動範囲・渡りの研究や個体数あるいは生存率の推定のために用いられる。

アシワツケホー 足環つけ法 [ringing method] ⇒足環つけ

アスピーテ [aspite, shield volcano] ①Aspite, Schildvulkan ②aspite, volcan en bouclier 粘性の低い玄武岩質の

溶岩流により形成された傾斜の緩い火山。楕状火山。

アセ 汗 [sweat ①Schweiss ②Sueur] ヒトの汗は比重1.002~1.006の液体で、その組成は99%が水、そのほかに少量のNa・Cl・K・尿素などを含む。汗は汗腺を通して分泌されるが、その機構としては、高温に曝露されることによる温熱性発汗と、精神的興奮による精神性発汗とがある。前者は手掌・足底を除く全身にみられ、体温調節に関係している。後者は手掌・足底・腋窩にのみみられ、体温調節とは関係がない。ヒト以外の恒温動物では、足趾(ネコ・イヌ)や、鼻の先(ウシ・ブタ)からだけ発汗するもの、また全く発汗しないもの(ヤギ・ウサギ)、全身から発汗するもの(ウマ・ロバ)など様々である。

アセイタイ 亜成体 [sub-adult] ネズミ類などの哺乳類で、体長・体重・毛皮の色その他では成体とみなしうるが、性的には未成熟の個体。昆虫類ではカゲロウ類 Ephemeroptera にみられる特殊な変態(前変態 prometamorphosis) の1ステージを意味し、幼虫と成虫の間にあって成虫とほとんど同じ形をもつステージを指す。亜成虫。⇒ワカモノ

アセチルブロマイドホー —法 [acetyl-bromide method] 地質年代の古い材化石ほど、アセチルブロマイド可溶物が少ないことを利用した年代測定法。

アソシエーション [association ①Assoziation] Clementsの遷移説に基づく群落区分の単位。極相である群系を構成する単位。群系に対応する大気候に対し地域的な気候の差異に応じて形成される気候的に安定な個々の単位をいう。1ないしそれ以上の優占種によって代表される下位の単位から成り、それらはコンソシエーション・ファシエーションと呼ばれる。たとえば極相としてのブナ林は冷温帯落葉樹林群系のアソシエーションである。極相植生のアソシエーションに対して途中相の対応する群、たとえばブナ林に対してススキ草原はアソシーズと呼ばれる。

⇒群集

アソシーズ [associes] 群落区分の単位。アソシエーションに対応する単位で、遷移の途上にある不安定な群落単位を指す。

アソシユール [associule] アソシーズに対応する遷移途中にある不安定な微生物群集。Clementsの用語。⇒アソシーズ

アソビ 遊び [play ①Spiel ②jeu] 鳥類・哺乳類の一般に未成熟個体に見られる現実的機能のない行動群。アカンボウ段階のひとり遊び self-play と、コドモ段階以降の社会的遊び social play とがある。いずれも個体の身体的発育を促すが、後者はそれにとどまらず、個体の社会化に役立つ。ヒトはオトナになっても遊ぶ例外的な種である。

アタイリクキコー 亜大陸気候 [subcontinental climate ①subkontinentale Klima] 夏期と冬期の気温差が激しく、無霜期間が短い気候。

アタタカサノシスー 暖かさの指数 [warmth index] 吉良 (1919) の考案した積算温度の一つで、植物の生育温度を日平均気温 5°C 以上とみなし、各月の平均気温から 5°C を引いて 1 年間合計した値。月・°C (m. d. ; month degree) で示す。暖かさの指数で植物帯を表すと、熱帯多雨林帯 240 m. d. 以上、亜熱帯多雨林帯 180~240、照葉樹林帯 85~180、落葉広葉樹林帯 (45~55)~85、常緑針葉樹林帯 15~(45~55)、ツンドラ帯 0~15 となる。温量指数。

アーチダム [arch dam]

アチチューカイセイ 亜地中海性 [sub-mediterranean ①Submediteranien] ⇒地中海気候

アッシュク 圧縮 [compression] 種間競争によって生態的地位 (ニッチ) の幅が狭まること。

アッシュクカセツ 圧縮仮説 [compression hypothesis] 競争中の種は、一定の生育地 (すみ場・ハビタート) 内で食う食物の種類数を減らすより、生育地の数のほうを減らす傾向があるという仮説。

アツジョー 圧条 [layering ①Schicht-

ung ②stratifikation] = 取木

アツタイニンセイ 圧耐忍性 [barotolerant] 常圧下だけでなく高圧下でも生息すること。

アツマキ 厚播き [heavier seeding]

アテ あて [compression wood, tension w. ①Druckholz, Zugholz ②bois de compression, b. de traction] 樹幹に一方方向の圧力または張力が常に作用している場合に、偏心成長に伴って現れる異状構造材。針葉樹では圧縮側 (谷側、風下) に生じるため、compression wood といわれ広葉樹では引張側 (山側、風上) に生じるため、tension w. といわれる。針葉樹では濃色を呈し、木化度が高く、もろい。広葉樹では導管の発達が悪く木化度が低い。

アデイトン 亜泥炭 [peaty clay, organic silt ①Mudde ②vase de marais] 泥炭中に無機質の土砂が混っている土層。

アトサク 後作 [succeeding crop]

アトハマ 後浜 [back shore] 海岸地形の高潮汀線と海岸線との間を指す。浜段丘はこれにあたる。

アトモメーター [atmometer] = 蒸発計

アトランドキ —— 期 [Atlantic period, Atlanticum] Blytt-Sernander の後氷期編年による一時代で、約 7000~4000 年前の間。現在よりやや温暖多湿な気候で、ヨーロッパ中央部ではこの時代に気候の極相林が初めて形成された。海進時代でもある。同年代を示す時代名として世界各地で用いられる。

アナログケイサンキ —— 計算機 [analogue computer ①Analogrechner ②calculateur analogique] 連続的の物理信号によって数値を表す計算機。

アナログシンゴ —— 信号 [analogue signal ①Analogsignal ②signal analogique] 連続量の大ききで示される信号。

アナンキョクテキ 亜南極的 [subantarctic ①subantarktisch] 南半球の高緯度地方に特有の、の意。硬団塊植物群系・亜極地ハイデ植生などがみられる。

アニアイガタ ショクブツゲン 阿仁合型植物群 [Aniai geoflora] 中新世前半期の日本各地の夾炭層に広くみられる植物群。温帯性落葉広葉樹を主体とし、これに針葉樹を混交している。Metasequoia・Glyptostrobus・Salix・Alnus・Betula・Carpinus・Fagus・Ulmus・Acer・Tilia・Hemitrapa・Nelumboなどが属する。⇒**台島型植物群**

アニオンコキュー ——呼吸 [anion respiration ①Anionenatmung] 植物の根におけるイオン吸収の際、アニオンに限り特別な呼吸が必要であり、これをふつうの呼吸すなわち基本呼吸fundamental respirationと区別している。陰イオン呼吸。

アネクメーネ [anecumene] ⇒**エクメーネ**

アネッタイ 亜熱帯 [subtropical zone ①subtropische Zone ②zone subtropicque] 広義の熱帯を熱帯と亜熱帯とに分けたときの温帯に接する地域であるが、範囲は不明確。Köppen は月平均気温20°C以上が4～11カ月、20°C以下が1～8カ月の範囲とした。冬少なくとも0°C以下には下らぬ無霜地帯で、だいたい緯度25～35°あたりがこれに相当する。暖かさの指数では180～240m.d.(月・°C)の範囲である。海洋では、熱帯生物相の著しく狭温性の種を除いて大部分が生息し、他方温帯生物相の一部も見られ、固有種が比較的少ないことが特徴とされる。

アネッタイ ウリョクリン 亜熱帯雨緑林 [subtropical summergreen forest ①subtropischer sommergrüner Wald] 亜熱帯モンスーン気候のとくに乾期の厳しい地域に分布する森林。亜熱帯サバンナと亜熱帯多雨林の中間に出現する。

アネッタイ コーウリン 亜熱帯降雨林 [subtropical rain forest ①subtropischer Regenwald ②forêt humide subtropicale] ⇒**亜熱帯多雨林帯**

アネッタイセイ ジョーリョク コーヨージュリン 亜熱帯性常緑広葉樹林 [subtropical evergreen forest ①subtropischer

immergrüner Wald] 樹冠は2～3層から成り、つる植物や着生植物などが多い。樹木は支根・板根をもっているものが多い。

アネッタイ タウリンタイ 亜熱帯多雨林帯 [subtropical rain forest zone] 亜熱帯多雨林の分布帯で、湿度指数の暖かさの指数が180～240m.d.(月・°C)の湿润気候の地域に相当する。⇒**亜熱帯雨緑林**

アネッタイ テキ シューレン 亜熱帯的収斂 [subtropical convergence] 系統の異なる生物が亜熱帯的環境に適応するように相似的形質を表すように進化する事。

アネロイドキアツケイ ——気圧計 [aneroid barometer ①Aneroidbarometer ②baromètre aneroïde]

アバレギ あばれ木 [overspread tree] 枝を張過ぎて1本で大面積を占領し、他の木の成長の妨げになっている木。

アヒョーセツタイ 亜氷雪帯 [subnival zone] 氷雪帯の下でこれに続く垂直分布帯。

アフトニアンカンピョーキ ——間氷期 [Aftonian interglacial period] 北米大陸の間氷期で、ネブラスカン氷期とカンザン氷期との間。ギュンツ-ミンデル間氷期に対比される。⇒**ギュンツ-ミンデル間氷期**

アブラオセン 油汚染 [oil pollution] ふつう石油類によって媒質が汚されること。天然填出の石油類による汚染も古くから記録されていたといわれる(たとえば紀元前5世紀のヘロドトス)が、現実には、人為的な産物である投棄された廃油・油残滓や漏出した原油・燃油類などによる港湾や河川・沿岸海域の水体の汚染が広く世界中で起っている問題となっている。pollutionを汚濁とし、汚染water contaminationは、病原菌や物質や放射能などによって人間の生命が脅かされる程度になった汚濁として区別することもある。

アフリカノコーザンタイノ ——の高山帯の [afroalpine] 高山帯はどこでも共通した特徴はもっているが、フロラ的にはかなり違う。その点から、とくにアフリカの山の高山帯をいうときに使う。

アヘンゲンシュー 亜変群集 [subvariant ①Subvariante] 変群集の下位単位。識別種によって決定する。

アポクリン セン ——腺 [apocrine gland] ⇨汗腺

アポミクシス [apomixis] 配偶子の接合なしに生殖が行われる場合の総称。処女生殖や無配生殖などを含む。

アマヨケ コーゾー 雨除構造 [rain-shedding structure] 社会性昆虫とくにシロアリなどの巣によくみられるもので、巣に直接雨がからぬように、雨を早く流すように、また雨をはじくように作られた各種の構造物。

アミド ショクブツ ——植物 [amide plant ①Amidpflanze] 体中に蓄積されたアンモニアをアミドに変えることによって除毒していると考えられる植物。酸植物の一種。典型的な例としてマメ類がある。

アメーバ ヨーノ ——様の [amoeboid]

アユーセンシュ 亜優占種 [subdominant ①Subdominante] 優占種に次いで被度・群度などの高い種。

アリー Allee, Warder Clyde, 1885～1955 アメリカの動物学者。シカゴ大学教授など。実験条件下における動物個体群解析の先駆者の一人で、とくに集合が個体の生理や生存に有利な影響を与える現象に注目して、動物社会学の一派を作った。また、いわゆるシカゴ学派の総帥として他の4人の共著者と著した Principles of Animal Ecology, 1949, は動物生態学に一期を画する教科書となった。〈主著〉Animal Aggregation, 1931, The Social Life of Animals, 1938。⇨アリーの原理

アリゲキタイ ショクブツ ノ 蟻嫌退植物の [myrmecophobic, myrmecophobic ①Myrmecophob] 毛・腺などでアリを寄せ付けない植物。

アリ サンブ 蟻散布 [myrmecochore] 種子がアリによって散布されるもの。ヤブケマン・スミレ・シクラメンの類でみられる。

アリ ショクブツ 蟻植物 [myrmecophilous plant, myrmecophyte ①Myr-

mekophyt, Ameisenpflanze ①plante myrmécophile] アリが茎や葉などの植物体の一部に共生している植物。アリノストリデ(アカネ科)など熱帯に多い。

アリスセイ ノ 蟻巢生の [myrmecophile, myrmecocole ①myrmekophil ①myrmécophile] アリ類の巣で生活していること。myrmecophile は、とくに巣の坑道内で生活していることを指す意味をもつ。

アリストテレス Aristoteles, 384～322 B.C. 北部ギリシャのスタゲイラの生れで、フィリップⅡ世の時代を生き、その子供のアレキサンダー大王の家庭教師を勤めた。アラネで Platon に師事し、Isocrates や Demosthenes にも学んだ。Platon は永遠のイデア Idea が実体であって感覚される事物はその映像に過ぎないとしたが、Aristoteles は、質料(素材)と形相とは結び付いて現実の事物として存在し目的にそって生成消滅や運動の中にあるとみた。自然や神の意図を容認する目的論とともに、自然学では存在すべきものとして生物の構造・機能をみるという合目的的生物観も提出した。数多くの種類の動物について形態・生理・習性などを記述し、生物の生息場所による類別や生物界の段階とその連続性についての考えを述べた Historia Animalium (動物誌)、De Partibus Animalium (動物部分論)、De Anima (靈魂論)などの著作が残されている。

アリー ノ ゲンリ ——の原理 [Allee's principle, A's law] Allee (1933, '38など) は集合が個体の発育・増殖・生存に有利な影響を与える現象が明瞭な社会組織をもたない原始的な動物群にも広くみられることを強調し、こみあいすぎと同様にまばらすぎることも悪影響を与える結果、しばしば増殖や生存に対する最適密度が存在することを指摘した。これは Allee の原理(法則)と呼ばれることがある。⇨最適密度

アルカリ クッセイ ——屈性 [alkaliotropism ①Alkaliotropismus] アルカリにより引起される屈化性の一様。

アルカリケッショ — 血症 [alkaliosis ①Alkalose] 血液のpHが何らかの原因により正常の範囲を超え、アルカリ性に移動した場合、またはpHがほとんど移動しなくても、アルカリに対する正常な緩衝能が減じた場合をいう。

アルカリコ — 湖 [alkali lake] 乾燥気候地域にあって非常に水温が高く、またpHも高く炭酸塩の含有量の多い湖。例：米国西部ネヴァダ州のピラミッド湖。

アルカリショクブツ — 植物 [alkali-plant ①Alkalipflanze ②alkaliphyte] アルカリ土壌で、土壌水がとくに強いアルカリ性を示す場所では、一般の植物は生育できず、特別にアルカリ耐性をもつ植物のみが生育できる。これらのアルカリ植物は一般に多肉で、細胞液中に高濃度の塩分をもち、浸透圧の高い土壌水も吸水できる。

アルカリセイ — 性 [alkalinity, alkaline ①alkalisch ②alkalin] = アルカリ度、⇨酸性度

アルカリチョゾー — 貯蔵 [alkali reserve ①Alkalireserve ②réserved'alcali] 動物の血液や体液中にアルカリ性物質（炭酸水素塩類・第二リン酸塩類など）が保有されること。これは、体内で代謝産物として生じる種々の酸を中和し、血液や体液を弱アルカリないしは中性に保つ働きがある。

アルカリド — 度 [alkalinity, alkaline. ①Alkalinität ②alkalinité] 国際海洋物理学委員会 (1939) により、「水温 20°C の水 1 l 中の弱酸イオンを遊離するのに必要なイオンのミリ当量数」と定義された。塩基度。⇨酸性度

アルカリドジョー — 土壌 [alkali soil ①Alkaliboden, alkalischer Boden ②soil alcalin] 土壌に 2～3 倍の蒸留水を加えた懸濁液がアルカリ性を示す土壌。一般に乾燥気候帯や海成沖積地の土壌に多く、多量の可溶性塩類を含む。

アルキュー — [RQ; respiratory quotient] = 呼吸率

アルセンリヤク — 戦略 [r strategy] 生活史戦略(方策)の中で、r 淘汰において優位を占めることができるようなあらゆる戦略。たとえば発育を速め早熟になり、結果として早く生殖を行うこと。それによって内的増加率が高まる方向に寄与する。r 方策。

⇨ r 淘汰

アルトータ — 淘汰 [r selection] 一般に不安定な一時的生息場所を生活の場とする生物は、生息場所の速やかな発見、その場所にすむ競争種を上回る速やかな増殖による資源の効率的利用、および場所の悪化に伴う分散移動などの点で優れた能力をもつとき繁栄の可能性が高いと考えられる。すなわち食物などの環境資源をより多く使うことによって(効率は何わらずに)より多くの子を残す生産力の高い遺伝子型の個体、いい替えれば内的増加率 r の高い遺伝子型の個体が自然淘汰の過程で有利な個体として選ばれるであろう。という意味で MacArthur and Wilson (1967) は、この淘汰を K 淘汰に対し r 淘汰と名付けた。r 淘汰は、内的増加率 r が高くなる方向、したがって発育が速く、体が小さく、また 1 回産仔数が多く、寿命が短くなる方向に進化する傾向をもたらす。⇨ r 戦略

アルビーヒ — 比 [R/B ratio; respiration/biomass r.] B/R 比の逆数。⇨ B/R 比

アルファーデス Alverdes, Friedrich 1889 年生れのドイツの動物社会学者。19 世紀末～20 世紀初めの生物学における擬人主義批判のあと、Espinas を踏襲しながら動物社会学を体系化しようとした。社会学への心理学の導入の傾向をうかがうことができる。〈主著〉Tiersoziologie (動物社会学), 1925。

アルベド [albedo ①Albedo ②álbédo] 反射能ともいう。太陽放射線の一部は地物によって反射されるが、その量的関係を全入射量に対する反射量の比で表したもの。草地で 0.2、裸地で 0.04 ぐらい。

アルベドコーカ — 効果 [albedo-effect] 氷は太陽光線の大部分を反射するため

一度雪または水で地表が覆われると、最初はわずかな気温低下であっても、しだいに氷自身の作用で気温降下域が拡大される作用。

アルミニウム シューセキショクブツ —— **集積植物** [aluminium-accumulating plant] 組織中に多量のアルミニウムを集積する植物。Rubiaceae・Melastomaceaeなどに属する多くの草本や木本にみられる。熱帯地方にとくに多い。

アレチ 荒れ地 [wasteland] 作物などの生産に不適・不能な地。荒地地。

アレルギー [allergy ①Allergie ②Allergie] 動物体内に特定の物質が入ったとき、これに対する抗体が生成されると生体は異常反応を示すことがある。このような反応を一般にアレルギーという。上の特定の物質を抗原(アレルゲン)allergenといい、これと反応して形成される物質を抗体ergenと呼ぶ。抗原抗体反応の結果、抗原に対する反応能力が弱化する場合を免疫、反対に敏感になる場合、過敏現象のみをアレルギーと呼ぶことが多い。

アレルゲン [allergen] 抗原。⇒アレルギー

アレレードキ —— **期** [Alleröd period] デンマークのアレレードでは、晩氷期の寒冷気候を示す堆積物にはさまれて温和気候を示す堆積物が知られており、これを根拠にして設定された温暖期。1万1000～1万2000年前に相当する。同様な特徴を示す堆積物は広くヨーロッパ・北米でも発見されている。

アレロパシー [allelopathy] ⇨他感作用

アレンキョクセン —— **曲線** [Allen's curve] アメリカの水産学者Allenによって1951年に提唱された個体群の生産量の図形的推定法の一つ。卵から始まって成長する個体群の各時点での個体数 N を縦軸に、個体重 W を横軸にとって描いた曲線。両軸と曲線で囲まれた面積が、その個体群の生物学的生産量である。⇨生物学的生産量

アレンノホーソク —— **の法則** [Allen's law] 種の進化に際して、環境条件の最適のところでその個体は最大の大きさになるとい

う Allen (1883) の説。

アロビオツェノーゼ [allobiocenosis ①Allobiozönose] 植物体上に見られる動物が構成する phytobiocenosis や動物体上に見られる動物が構成する zoobiocenosis に対して、無機物や死体などの死物の上に見られる動物の集団を指す。生物群集の意味はもたない。

アロフェン [allophane ①Allophan ②allophane] ふつつ火山ガラスの風化物として土壌中に含まれるシリカ-アルミナ鉱物。 $1 \sim 2 \text{SiO}_2 \cdot \text{Al}_2\text{O}_3 \cdot n\text{H}_2\text{O}$ 。

アンカッシュクスイ 暗褐色水 [black water] 黒い水。見た目には濃い紅茶かコーヒー色をしている。懸濁物が少なく透明度は比較的大きい。無機イオンや栄養塩類に乏しく、強い酸性(pH4.0～5.0)であるのが特徴である。一次生産は一般に低い。熱帯アフリカ・東南アジア・アマゾン水域に共通に存在する。寒帯にある腐植栄養型湖沼(泥炭池沼・高層湿原など)の水質に似ているが、まだその関連性は解明されていない。

アンカッシュクスイ カコイキ 暗褐色水河口域 [blackwater estuary] ⇨暗褐色水

アンゲオゼレ [Angeosere] ⇨新生代遷移系列

アンコキュー 暗呼吸 [dark respiration] 緑色植物で暗黒条件下での呼吸。これに対し光照射下の光呼吸があり、 C_3 型植物では両者の区別を必要とする。

アンセイ フューセイブツ 暗性浮遊生物 [skotoplankton ①Skotoplankton ②skotoplankton] =嫌光性浮遊生物

アンセイ プランクトン 暗性—— [skotoplankton] 暗性浮遊生物。

アンティミツド 安定密度 [steady density] 個体群の密度がほぼ一定値を保ち続けるとき、その密度を安定密度という。恒常な実験条件下における単一種を増殖させた場合でも厳密には安定密度に達することは少なく、多少とも変動するのがふつうである。なお Schwerdtfeger (1935) が用いた eiserne Bestand も安定密度と訳されているが、これは

森林に被害を生じない程度の低い害虫密度ないしそれを保っている立地のことを意味する。

アンテキオー 暗適応 [dark adaptation ①Dunkeladaptation] ①順応ともいわれる。視感覚について、暗所において時間がたつにつれて弱い光をも識別できるように視感覚が増大すること。一般にその完了には明適応よりは長い時間を要する。②植物の光合成について、種により季節により光合成が飽和する照度が低くなって、より低い照度で光合成速度が最高値に達するようになった状態。底生藻類など一般に陰性植物(陰樹)ではこのような暗適応が見られる。

アンドド ——土 [ando soil, andosol ①Andosol ②Andosol] 湿润気候のもとで火山灰から生成した黒色ないし暗色の腐植質

土壌。いわゆる黒ぼくに相当する。アンド土壌。

アンハツガ 暗発芽 [dark germination ①Dunkelkeimung ②germination à obscurité] 植物の種子の発芽が、光により抑制される現象。

アンモニアカ ——化 [ammonification ①Ammonifizierung] 死滅した生物のタンパク質・核酸などが微生物の働きにより分解し、アンモニアを形成すること。

アンモニアサンカサイキン ——酸化細菌 [ammonia-oxidizing bacteria ①ammoniumoxydierende Bakterien] アンモニウム塩を好氣的に酸化し亜硝酸を生じることのできる細菌。硝化作用の一部であり *Nitrosomonas* 属の細菌が主としてこれを行う。

イ

イエットーチガタ 異越冬地型 [allohyemie] 鳥類で、ある個体群に属する個体が異なった越冬地へ渡ること。

イオーサイキン 硫黄細菌 [sulfur bacteria ①Schwefelbakterien] 硫黄や無機硫黄化合物を酸化することによってエネルギーを獲得し、炭酸同化によって生活する細菌類。化学合成を行う無色硫黄細菌と、光合成を行う光合成細菌とがある。

イオージュンカン 硫黄循環 [sulfur cycle ①Schwefelkreislauf] 自然界における硫黄の循環。硫黄は、硫酸塩 SO_4 や亜硫酸塩 SO_3 の形で植物体に取り込まれ、還元されたのち主にタンパク態として食物連鎖を移動する。動植物の枯死体や排出物中の有機態の硫黄は、さまざまな微生物により無機化され、空気中・水中・土壌中へ放出される。無機化の過程は、主に有機栄養細菌による硫化水素 H_2S の生成による。また硫黄の循環には硫黄の硫酸塩への酸化や、硫酸還元菌による硫化水素への還元が含まれる。

イオーセン 硫黄泉 [sulphur spring] 硫黄分の多い湧泉。周辺に特徴ある乾生植物の生育する高温硫黄泉を solfataras という。

イオン [-ion] 植物社会学的な上級群落単位・群団名の語尾。たとえばアゼナ群団 *Lindernion procumbentis*。

イオンコーカン —交換 [ion exchange ①Ionenaustausch] イオンをもった物質を別のイオンを含む溶液中に入れると両イオンの交換が起り、溶液中のイオンが物質と結合する現象。イオン交換樹脂等を用いて、物質の単離や精製に利用される。また土壌中のコロイド粒子は、イオン交換によって種々のイオンを吸着することができる。

イオンチョーセツ —調節 [ionic regulation] 変浸透圧性であっても、体液中の特定のイオンの濃度は媒質のそれとは独立に一定に保つような生理的活動。

イオン ドープツ 異温動物 [heterotherm] 休眠中に外界から体熱を供給されるほかは、体内での代謝により体温を維持するような動物。

イカ 異化 [dissimilation] 生物体内で複雑な有機物が化学的により簡単な組成の物に作り変えられ、自由エネルギーを放出すること。量としては単位時間あたりの呼吸量・動物の尿量・脱落量の合計量で表される。
=異化作用、⇔同化

イガイゲンシュウ 遺骸群集 [thanatocoenosis ①Thanatozönose ②thanatocenose] 同一の生物群集を構成していなかった生物も含めて、それらの遺物の集りをいう場合と、ある共通の原因によって同時に死滅した生物の遺物の集りだけを指す場合とがある。⇔遺棄群集

イカクシセイ 威嚇姿勢 [threat posture ①Drohstellung] ふつう外敵や他個体の攻撃や接近を阻止しようとするときに、動物が示威誘示の行動の中でとる姿勢。

イカクショク 威嚇色 [threatening colouration ①Drohfarbung] 毒もなく、不快な味や臭いもない動物において、捕食者を驚かす機能をもつ奇異な色彩や模様をいう。チョウやカの翅や幼虫にある眼状紋などがその例。

イカサヨー 異化作用 [catabolism ①Katabolismus ②catabolisme] 生体内の代謝において、複雑な有機物をより簡単な物質に分解する反応。この際エネルギーが放出される。同化作用 anabolism の反対。=異化、⇔同化作用

イガブ [igapu, igapo] アマゾン流域で、排水が悪く周期的に冠水する森林地帯。

イキ 閾 [threshold ①Schwelle ②seuil] ある作用因子が、生物に一定の反応を引き起すか起さないかの限界。その値を閾値といい、反応を引き起す最小値、あるいは反応

を引起さない最大値、または両者の平均値をもつて表す。

イキカイ ノード 閾界濃度 [threshold concentration, limiting c.] 臭気・味・視覚・声など人の感覚でかろうじて認め得る濃度。

イキゲンシュウ 遺棄群集 [liptocoenosis] 化石生物の群集で、その埋積が生育場所と同じでないもの。⇒遺骸群集

イクス [ICSU] 国際学術連合会議。

イクビョー 育苗 [nursery, nursing, ①Pflanzen(an)zucht ②culture des plant]

イクリン 育林 [silviculture ①Waldbau ②sylviculture] 造林と同意。広義には森林の保護も含める。造林より森林の保全を強調した意味で用いられる。

イケ 池 [pond ①Teich] 湖沼より狭い閉鎖性の水体を指す。一般に浅くて水生植物が繁茂している。

イケイ 異型 [variant ①Variante ②variant] 全体として既存の典型的なもの(生物・群落・土壌など)とは異質であるが、地理的な広がりや限定があって変異的なものとして扱うとき用いる。群落単位としては変群集という。変異体。⇒変群集

イケイヨー 異形葉 [heterophyll ①Heterophyll ②hétérophylle] 正常に生育する一個体の植物に常に2種以上の形態の異なる葉を生じることを異葉性 heterophylly といい、その葉を異形葉という。

イクスヨーショク 生養繁殖 [net cage culture]

イケドリワナ 生捕りわな [live-trap] ネズミ類など小型哺乳類の密度や行動範囲の推定に用いる。餌を引張ると閉まるバネ型、通過の際踏み付けにより蓋が閉まる踏み板式、落込むと出られなくなる墜落罠などがある。前二者は1頭捕り、最後のは多頭捕りである。目的や労力に応じて使い分ける。

イコーソー 移行相 [transient phase, p. transiens] 転移相ともいう。ワタリバ

ツタ類 locust の相変異のうち、孤独相と群居相の中間に位置するタイプの総称で種々の変異段階のものが含まれる。孤独相から群居相への転換途上にある congregans とその逆の過程にある dissocians の区別は、かつて概念的なものに過ぎないといわれたが、最近の研究では翅芽の形態などで両者を識別し得る可能性があると示されている。⇒群居相、⇒孤独相

イコータイ 移行帯 [transition zone, ecotone] 異種の植生・植生帯・生態系が境を接して、漸次移行する中間地帯。推移帯。

イジカンシュ 異時間種 [allochronic species] 生活していた時代が異なるために区別される種。

イジコードー 維持行動 [maintenance behaviour, m. activities] 社会行動と対立する用語で、個体レベルの生理的欲求を満たす行動群。採食行動・排泄・休憩・睡眠等に分類される。

イジュー 移住 [migration] 生物が一つのすみ場から他へ移ること。ある地域から別の地域へ出ていくことを移出 emigration, 入ってくることを移入 immigration という。⇒移出

イシュク 萎縮 [atrophy] 正常の大きさに達した器官・組織の容積が減少すること。先天的な発育障害とは別で、細胞に栄養の補給が妨げられたり、細胞自身に原因があったりして起る。

イシュコタイゲン 異種個体群 [interspecific population, interspecies p.] 2種以上の異なった種に属する個体の集団、あるいは実験的に数種の生物を混在させて作った一群の生物集団。⇒混合種個体群

イシュサンブ 異種散布 [heterochore] 自動散布の対語で、種子などの散布体何らかの外部の媒介で散布するような形態的特徴をもつたもの。⇒自動散布

イシュツ 移出 [emigration ①Emigration ②émigration] 一つのすみ場から個体または個体群が移動して出ること。過度

の個体群密度や食物の不足なども原因と考えられている。移出した個体は移出者(移出個体) emigrant という。魚類の回遊や鳥類の渡りなど回帰的なものは migration と呼び、移出と区別する。大集団の移出 mass emigration には、レミング・飛蝗・イチモンジセセリ・ヒメアカタテハなどの例がある。ニホンザルのオスの移出は、遺伝子の分散、種の均一化などの役割を果たしていると考えられる。移入の対語。⇒移入

イシュツシャ 移出者 [emigrant] ⇒移出, ⇒移入

イショク 移植 [transplanting, transplantation] ①Verschulung, Unipflanzung ②repiquage, transplantation ①一般に植物を別の場所に植え替えたり動物を他の場所へ移入すること。苗床で仕立てられた苗を農地・花壇・庭園などに植え替えるのはその典型。林木の苗木の場合、播種床から苗床に移して苗木を育てるのがふつうで、とくに床替と呼ばれる。有用動物の移植は artificial stocking ともいわれる。②動物では体のある部分を他の部分または他の個体に移植すること。

イショクサイバイ 移植栽培 [transplanting culture] 苗床で苗を仕立てて、それを移植する栽培法。

イショケイ 異所形 [allopatric form] 異所的に生息している生物群。異所種に同義であることが多い。

イショシュ 異所種 [allopatric species] ①allopatrische Art 近縁な種で、互いに近接しているが地理的に分布が重なり合わないで生息しているもの。⇒異所性

イショセイ 異所性 [allopatry] 近縁の種あるいは形質の類似した二つの生物群が近隣で異なった分布圏をもち、重ならず空間的にすみ分けていること。この2群の間で交配が容易であれば両群は同一種内の変異とみなし、交配不能か F_1 が不稔であれば、異種とみなす。

イショテキカクリ 異所的隔離 [allopa-

tric segregation] 異所的に起っている生物集団の隔離。

イショテキコタイゲン 異所的個体群 [allopatric population] 異所的な種内の集団。

イショテキシュブンカ 異所的種分化 [allopatric speciation] 地理的隔離を通じて起った種分化。

イセキシ 遺跡種 [relict species] = 遺存種

イセキシ 遺跡的 [relict ①relicte] ⇒遺存種

イセキド 移積土 [transported soil] ①allochtoner Boden ②sol allochtone 運積土・漂移土ともいう。土壌母材料や土壌が風・水・重力等により移動して再び堆積してできた土壌。移動の力により崩積土・水積土・氷積土・風積土・火山性土などに分けられる。⇒氷積土

イソサイズ [isocies] 異なった場所において、種類組成は異なっても同様の特徴をもった群落や階層。

イソーゼイタイセキ 異相自生堆積 [heteroecious autochthonous deposition] 生物の生息場所からその遺骸が上下方向に移動して堆積する場合、たとえば水中の遺骸が沈下して生息時の下方の海底に堆積した場合で、外洋底に多い。

イソータセイタイセキ 異相他生堆積 [heteroecious allochthonous deposition] たとえば海産でない生物の遺骸が運搬されて海底に堆積するような場合をいう。貝塚は人為的異相他生堆積の一例。

イソヤケ 礫焼け [denudation] 豪雨などによる低塩分濃度の海表面水のために、潮間帯の岩礁の生物が大量に死んだ状態。

イゾングラク 遺存群落 [relict community] ①Reliktgesellschaft 相親としては同じプレーリーでも、家畜や野生動物の影響を受けない気候的極相としてのプレーリーは彼らの近づけない断崖の上などにしか残っていない。Clements はそのようなものを

遺存群落とした。その他、かつて広い地域に生育していたとみられるが、環境の変化によって分布が限定された植物群落を一般的にいうこともある。

イゾン コユー 遺存固有 [epibiotic endemism, relic e., paleoepibiotic e., conservative e.] かつては広い分布域をもっていた種で、しだいに分布域が縮小している固有種。進化史上は古い種とみなされる。古固有・保存固有。

イゾン コユー シュ 遺存固有種 [epibiotic endemic species] ⇨ 遺存種, ⇨ 固有

イゾン シュ 遺存種 [relic(t), epibiotica, relic species, depleted s., epibiotic s. ① Relikt ② relique] 過去の気候、その他の環境条件から現在までこれらの変化に耐えて生き残った生物種。残存種。一般には現在種に抑圧されているものが多い。生息地域が唯一であるとき ~~種~~ は必然的に固有的の endemic であるが、たとえば海跡湖に残された生物のようにいくつかの場所で見られるときには、地域のとり方いかんによっては固有的とはいえない。遷移の前段階の群落の構成種もしくは大きな環境変化を乗り越えてきた群落の断片を relict といい、過去の気候条件下で栄えて、今は抑圧されている群落を relic ということもある。遺跡種・遺留種。⇨ 固有, ⇨ 残存植物

イチジキカ フロラ 一時帰化——[adventive flora] 偶発的に部分的にかつ一時的に成立する外来植物のフロラ。

イチジキセイシャ 一次寄生者 [primary parasite ① Primärparasit] 非寄生性動物に寄生する生物をいい、とくに昆虫の寄生について用いられる。しばしば草食動物に寄生する昆虫を指す。

イチジゲンラク 一次群落 [primary community ① primäre Gesellschaft] まだ植物の生育していなかった新しい自然立地、たとえば火山噴出物上や洪水あとの裸地に成立した最初の群落。⇨ 二次群落

イチジショーヒシャ 一次消費者 [prima-

ry consumer ① Primärkonsument] 生産者を食糧とする動物、すなわち植食(草食)動物。

イチジセイサンリョク 一次生産力 [primary productivity] 生産者の光合成または化学合成によって有機物として固定されたエネルギーの、ある期間あたりの量。またはその有機物のある期間あたりの重さ。

イチジセイ フユーセイブツ 一時性浮遊生物 [tychoplankton] 正常な生活としてではなく、偶然的・一時的に浮遊している生物。臨時浮遊生物。

イチジセイ プランクトン 一時性——[tychoplankton] = 一時性浮遊生物

イチジセンイ 一次遷移 [primary succession] 火山噴火地などのように、全く新しい裸地上で始まる群落の遷移。その遷移系列を一次遷移系列 prisere, primary sere という。

イチジテイチャク 一時定着 [adventive] 植物が一時的にある土地に定着すること。Clementsの用語。

イチジテキキ セイ 一時的寄生 [temporary parasitism] 一生のうち一定の時期のみ寄生する場合をいう。

イチジテキコショ 一時的湖沼 [strand lake] 極端に一時的な湖。豪雨の後や雨期にだけ生じるが、乾期には全く消失するもの。

イチジテキ シオレ 一時的萎れ [temporary wilting] 水不足による萎れで、水を与えて容易に回復するもの。一時的凋萎。

イチジテキ セイソクバシヨ 一時的生息場所 [temporary habitat] ⇨ 永続的生息場所

イチジテキ チョーイ 一時的凋萎 [temporary wilting] = 一時的萎れ

イチジテキ ホーボクチ 一時的放牧地 [temporary pasture] 一年生植物を含む放牧地(牧草地など)で、短期間の放牧に使うときにいう。

イチジュン ショクブツ 一巡植物 [monocarpic plant] 一生に一度開花結実して死ぬ植物。一回結実性植物。

イチセイ 異地性 [allochthonous] 他の地域で分化したある生物種が、現在生息している地域に移動し分布しているもの。adventive もほぼ同義。⇒他生堆積の

イチセイ ノ 異地性の [allochthonous] ①allochthon ②allochtone もともとあった場所から移動または運搬されてきた岩体や化石。

イチニチ チョー 1日潮 [diurnal tide] ふつうのおよそ半日周期で1日に2回の干満が起る半日潮 semidiurnal tide に対して、1日に1回の干満がある潮汐。

イチネン ギョ 1年魚 [one-year-old, year(l)ing] 孵化後1年以上2年未満の幼魚。1+と略記する。サケ・マス類の海に下って回遊生活1年以内のものは smolt といわれる。⇒ゼロ年魚

イチネンセイ 一年生 [annual] ⇨一年生植物

イチネンセイ ショクブツ 一年生植物 [therophyte, annual plant] ①einjährig Pflanze ②plante annuelle 不良季節を種子で過し、発芽から結実までの全生活過程を1年以内に終える植物。ハコベ・メヒシバ・イヌタデなどの耕地雑草や人里植物に多い。

イチネンセイ ショクブツ キコー 一年生植物気候 [therophytic climate] 生活型スペクトルにおいて、一年生植物の比率の高い地域の気候。亜熱帯で夏期乾燥する気候に当る。Raunkiaer の植物気候の一つ。

イチネンセイ ノ 一年生の [annual] ①einjährig ②annuel ⇨一年生植物、⇨一年年の

イチョー ブンブ 一様分布 [uniform distribution] 機会分布を基準にして、より均一に個体が分布する場合をいう。規則分布または配列分布 regular distribution とも呼ばれる。個体間に競争あるいは空間独占の傾向があったり、相互反発力が働く場合に期待される。各区画に全く均等に個体が分布する完全一様分布 completely uniform d. のほ

か、区画あたり収容数に上限があるか、個体間に反発力が働く場合のモデルとして正の二項分布 positive binominal d. が知られている。

イツエキ 溢液 [guttation] =排水

イッカイ サンシスー 1回産仔数 [litter size] 1腹産仔数。1雌が1回に産む子の数。主として哺乳類に用いる。

イッカイ ハンショク 1回繁殖 [semelparity] 繰返し繁殖に対して、一生の間に繁殖(生殖・出産)を1回だけ行うこと。繁殖の方法は問わず、分裂・胞子の発芽・産卵・種子繁殖・産児などいずれでもよい。一年生の種子植物はその典型的な例であるが、バクテリア・高等菌類などもそうであり、動物にも多い。多年生植物でもリュウゼツランなどがこれに該当する。1回結実性 monocarpy はふつう多年生植物についていい、一年生植物についてはいわない。⇒繰返し繁殖

イッカイ ハンショク ノ 1回繁殖の [semelparous] ⇨1回繁殖

イッカセイ 一化性 [univoltine] 年1回発生の。1年1世代を経過すること。

イッサイ タフコン 一妻多夫婚 [polyandry] 一夫多妻婚(ポリガミー)に比べて例は非常に少ない。たとえ一妻多夫婚が認められている社会でも、ある特殊な社会的・経済的条件下においてのみみられる。たとえば兄弟が父親から相続した財産を分散させないために行う場合などである。⇒ポリガミー

イッセイリン 一斉林 [even-aged forest] ①gleichaltriger Wald, g. Bestand ②peuplement équienne, p. uniform ⇨同齡林

イッソー ヒナスー 1巢ひな数 [brood size] 鳥類の1巢あたり孵化したひな数。

イッソー ランスー 1巢卵数 [clutch size] 1匹の雌が1回に産下する卵数。主として鳥類の場合に用いる語。Lack (1954) は、鳥類の1巢卵数は自然淘汰の結果つがい養い得るひなの数を最高にするように決定されていると主張した。1腹卵数。⇨1回産仔数